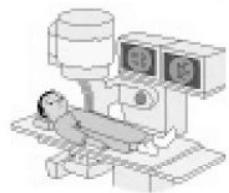




～低髄液圧症候群の診断には、「脳MRI検査」と「脊髄のRI検査」を併合することで可能～

# RI検査 = RI脳槽・脊髄腔シンチグラム

髄液の漏れている場所や程度をみるための検査



## 1、核種

In-111-DTPA (メジ) 37MBqを発注する

## 2、準備

レンバールのセットと消毒の準備を依頼する (要、看護婦)

## 3、核種準備

In-111-DTPAをディスポシリジにセットする

## 4、検査

- ① コリメーターを中エネルギー用にする
- ② Static In-111を起動する (1枚／7分)

投与後、1時間、3時間、6時間、24時間に背面より撮影する

- ③ 1時間後、1.00倍で撮影
  - i. 膀胱を入れて、蝶骨部にマークを入れて撮影  
(注入時使用のレンバール針使用)
  - ii. 肩にマークを入れて、i. に重複するように撮影
- ④ 3時間後は
  - i. 1時間後と同様に撮影
  - ii. 加えて、頸部～脳室部を1.0倍で撮影

⑤ 6時間後・24時間後は3時間後と同様に撮影する

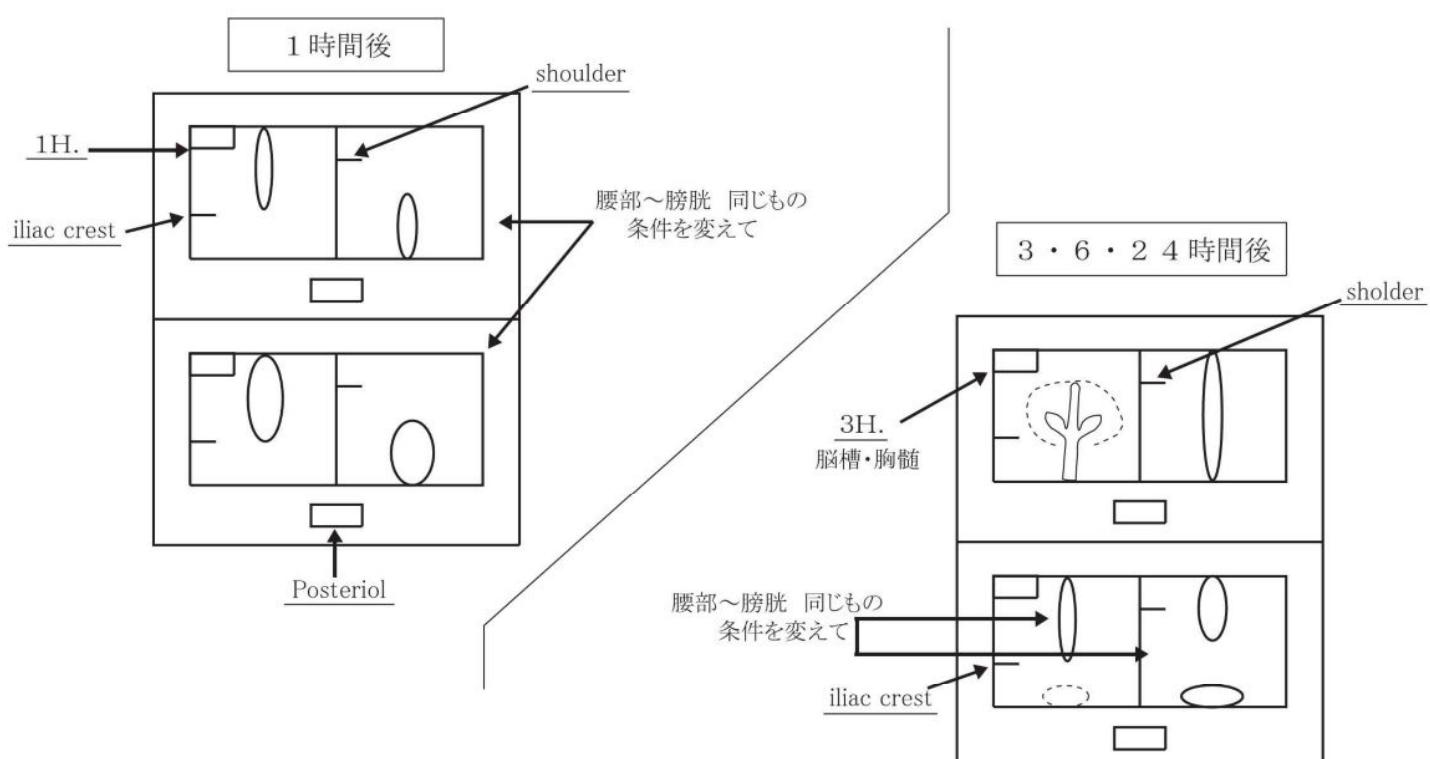
< 注意 > 撮影位置は、膀胱～脳室までを、3回に分けて境目は重複すように

撮影時間は、1、3、6時間後は各7分間で24時間後は各10分間の撮影で行う

## 5、フィルム

- ① フィルム4分割
- ② 膀胱部が見えるような条件と通常の条件でプリントする (下部の図 参照)
- ③ 各時間の胸椎部はフィルム1枚に強調画像としてプリントする
- ④ フィルムは、全部で5枚となる (1、3、6、24時間後)

<フィルム(例)> 以下の例に示す(アンダーラインの部分)のようにコメントを入れてプリントする



膀胱部強調画像は早期で見えなければ、それでもかまいません

膀胱部強調画像で、角やこぶの様なものが見えたときはそれが見やすい様に